

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2017

10月

No.148



特集 P2・3

自分らしく
安心して暮らす
権利を護る

みんなで取り組む 権利擁護支援

一宮町東市場

かたやま ちひろ
片山 智博さん(79歳)

さちこ
幸子さん(76歳)

さな たつひろ
○紗那ちゃん(7歳) ○達裕くん(4歳)

りな
○莉那ちゃん(2歳)

ひろたか なお
片山 裕敬さん・奈保さん

■長女・長男・二女

ひ孫と
いっしょ

シリーズ147



孤立する人をなくす地域づくりを進めていくために、西河内では毎月ふれあいサロンを開催。この日は福祉連絡会のメンバーで情報を交換(8/2 西河内公民館)

自分らしく
安心して暮らす
権利を護る

みんなで取り組む 権利擁護支援

宍粟市社会福祉協議会(以下、本会)では、「第3次地域福祉推進計画(平成28年度～31年度)において、「総合的な権利擁護支援の仕組みをつくる」を重点事項に掲げ、制度や分野の枠を超えた横断的なネットワークづくりに取り組んでいます。今月号では、住民も専門職もみんなで取り組む「権利擁護支援」について考えます。

「権利擁護」とは

権利擁護という言葉、聞いたことがあっても一体何のことなのか、分からない人のほうが多いのではないだろうか。

権利擁護とは、高齢者などの介護の現場でよく使用する言葉ですが、日常生活において使用することは少なく、簡単に言えば「自分らしく安心して暮らす権利を護る」という意味です。

近年は、高齢者を狙った悪質な訪問販売や住宅改修が後をたちません。また、認知症等になり

自分の財産を管理するのが難しくなる場合もあります。さらに、障がいのある方を抱える親が介護に疲れ、無理心中を図るといった悲しい事件もあります。

社協が取り組む 「権利擁護支援」

社協では、こうした「安心して暮らす」ことが脅かされる事態に対して相談にのり、本人の権利を護るため、地域包括支援センター等と連携を図りながら支援を行っています。

社協が取り組む権利擁護支援



パジャマのお直しに大喜びのAさん。縫製ボランティアさんはAさんの生活を支える伴走者です

は、衣食住など生活上の基本的な困りごとへの支援だけではなく、手続き・適切なサービス内容の保障・情報・訴え・参加など、生活の中で誰もがが必要と思われることを社会的に確立していく支援を行うことです。

そして、本人が地域の中で、さまざまな人に支えられたり、支える立場になったりしながら、自分の存在が価値あるものと認識でき、**本人が主体的となって生きていくことを支える**ことです。

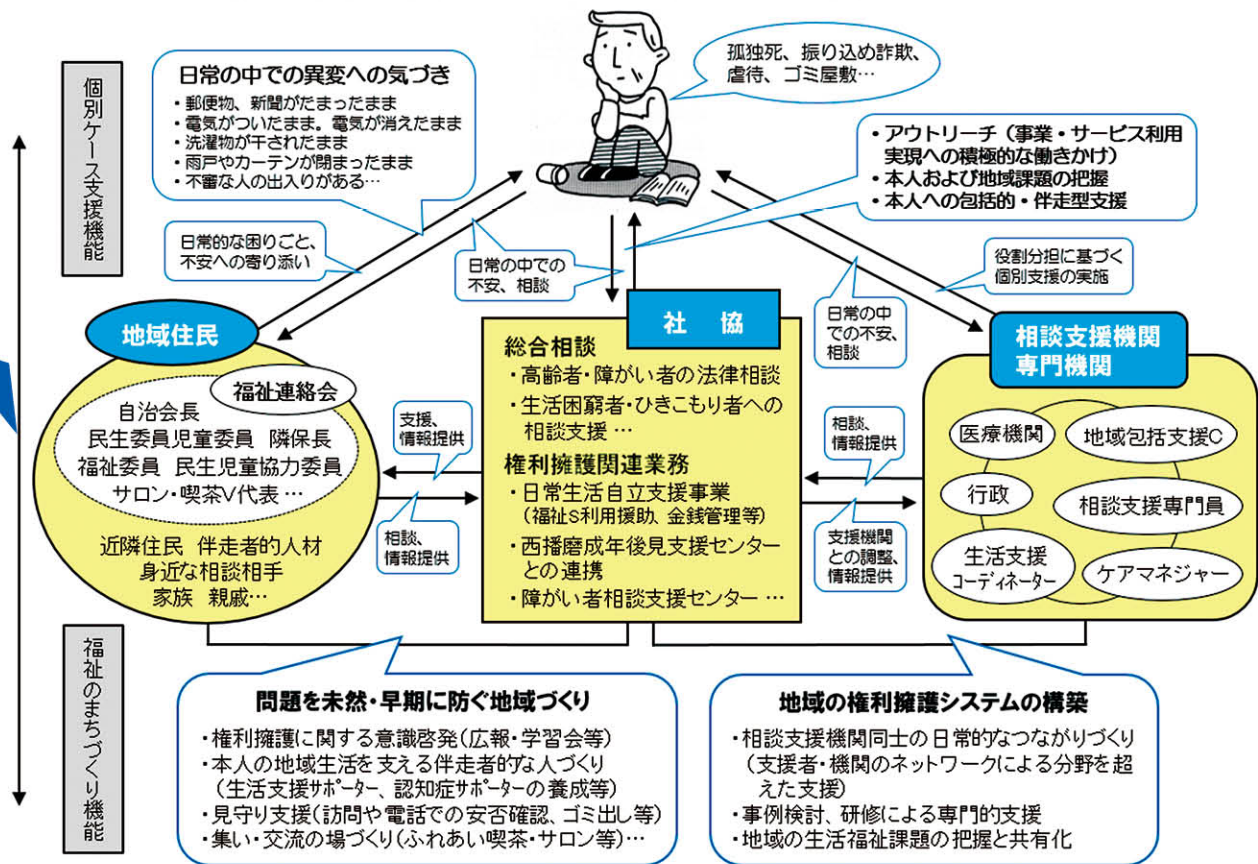
そのために、本会では、住民も専門職もすべての人たちがつながり、いっしょに考え支援する輪(ネットワーク)を作っていく

読者の
感想より

宍粟市に引越して来て間もないので、「こんにちは!社協です!!」を見て、知らない情報やお知らせを楽しみに読んでいます!(山崎町 女性)

住民も専門職もみんなで取り組む権利擁護支援

～自分らしく安心して暮らす権利を守るために～



権利擁護支援の特徴や視点

- ① 社協の事業・サービスまたは、地域や関係機関からの情報を受けたアウトリーチ（積極的な働きかけ）による問題の早期把握
- ② 権利擁護関連業務を通じた本人への包括的・伴走型支援の実施
- ③ 支援者・機関のネットワークによる分野を超えた支援
- ④ 関係者間での知恵の結集による制度・サービスの枠を超えた個別問題への対応
- ⑤ 問題の予防、早期発見・早期解決と、支援を要する人の自立を支える地域の取り組み（小地域福祉活動）推進

ことをめざしています。（上図参照）

その人らしい生活を支えることも「権利擁護支援」

要介護で体に障がいのあるAさんから、入院のためケアマネ

ジャーにパジャマの丈直しの相談がありました。本会コミュニケーションカーの紹介で、縫製ボランティアさんに協力をいただきAさんはとても喜ばれました。

それ以来、縫製ボランティアさんは、Aさんの生活を支える伴走者として寄り添っています。

物忘れなどの症状があるBさんは、ご近所の方といきいき百歳体操やふれあい喫茶に行くことが何よりも楽しみです。

Bさんが介護サービス（ヘルパー訪問）を利用される際には、地域の行事にも参加できるように調整を行い、当日には、ご近所の方が誘いに行かれ、これまで通り行事に参加されています。

普段の生活の中で、時として本人の意思が置き去りにされてしまうことがあります。住民も専門機関もすべての人たちが、**その人らしい生活を支えることも「権利擁護支援」**です。

住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らす権利を守るためにも、「その人らしく生きる」とことへの支援と、それを支える地域づくりを地域全体で進めていくことが大切です。

（地域支援課長 波多野好則）

読者の感想より

「ひ孫といっしょ」毎号楽しみにしています。知っている人だと嬉しいです。私もひ孫がいますが市外に住んでいるので本当に残念です（波賀町 女性）

や
まさき

神姫バスに車いすで乗ったよ

城下小学校「交通環境教室」

9月27日(水)城下小学校で、全児童226人を対象に「交通環境教室」が行われました。

この教室は、環境と公共交通への関心を深めることを目的に、国土交通省神戸運輸管理部が企画され、当日は、神姫バス(株)の協力で、校庭に用意されたバスへの乗車体験が行われました。

また、4年生は、本会職員による、車いす体験教室を行い、基本操作を学ぶとともに、お互いを思いやり大切にする心や道路や施設における気遣いについても学習しました。

そのあと、実際に神姫バス乗務員の指導のもと、車いすでノンステップバスへの乗車体験も行いました。

児童たちからは、「スロープが出てきて、車いすのまま乗れたのがすごい」「降りる時に、車体が傾いて降りやすく工夫されていた」といった感想がありました。

児童たちは、車いすやバスを使った体験から、環境や福祉への関心がより深められた様子でした。今後本会では、関係機関と連携しながら、福祉学習を進めていきます。

(山崎支部 山本めぐみ)



「大丈夫ですか」乗務員の優しい声かけで、ノンステップバスに車いすで乗車体験する児童たち(城下小学校)

い
ちのみや

「いき生きいぎす」で高齢者を見守り

隣保長が自治会広報を手渡し



「ぼちぼち、しよってか?いき生きいぎす、持ってきたで」「毎月ありがとう。いつもご苦労さんやなあ」

生栖自治会では、「いき生きいぎす」を毎月発行され、隣保長が各戸へ訪問し手渡しをする取り組みが22年続いています。

「いき生きいぎす」は、役員会で決まった内容を共有し、自治会行事やふれあい喫茶などへ参加するきっかけになればと作成されています。

9月18日(月)、月谷組隣保長の平林一歳さんの訪問に同行させていただきました。

「みなさん、楽しみに待ってくれとてやで。ひとり暮らしや高齢者世帯が多いから、

できる限り手渡ししよるんや。顔見たら話もできるでなあと、一軒一軒手渡しで広報紙を届けられる平林さん。

訪問に同行し、「いき生きいぎす」が情報共有だけでなく、お互いの顔が見える関係づくりに生かされているように感じました。

このように、隣保長の訪問が、高齢者の安否確認や見守りにもつながる大切な役割を果たしています。

これからも、生栖自治会の宝物として、「いき生きいぎす」の発行が続きますようお願いしています。

(一宮支部 上川あゆみ)

は
が

お茶の作法は「ムズカシイ」(安養寺お茶室)

旧野尻小学校で始まった日豪交流は、現在では波賀町全域で取り組む国際交流事業として住民のみなさんに認知され、各地域で協力した受け入れが行われています。

(波賀支部 田中祥仁)

WELCOME to 波賀!



HJA「波賀日豪親善交流会」

昭和56年に旧野尻小学校でオーストラリアからの訪日団受け入れから始まった日豪交流。

地域の方々の協力で続いてきたこの国際交流は、波賀小学校に統合された後も「HJA」(波賀日豪親善交流会)に引き継がれ、現在もアイアンサイド小学校との交流が毎年行われています。

今年アイアンサイド小学校の児童及

び引率者50名が訪日し、9月25日から5日間波賀町内の26家庭でホームステイしました。

9月26日(火)、安養寺(齊木)を訪れると地元の子どもたちといっしょに訪日団の方々がお寺を見学し、その後、訪れた方々にお茶が振る舞われました。

ホストファミリーでもある井上睦照住職は、「伝統ある日豪交流が学校統合後も続いてうれしく思います。この体験が子どもたちの未来に活かされます」と話されました。

この日は交流DAYとして各地区で親睦イベントが行われ、地域の方々と訪日団の方々が交流される姿を町内各地で目にする事ができました。

※アイアンサイド小学校:オーストラリア プリスベン市

ち
くさ

連携の大切さを確認

千種民生委員児童委員協議会

9月15日(金)、千種保健福祉センターを会場に、「千種民生委員児童委員協議会(以下、千種民児協)合同研修会」が開催されました。

当日は、44人(民生委員15、主任児童委員2、協力委員27)が参加され、支え合いの地域づくりを進めていく上で、必要な「連携」についていっしょに考えました。

研修会では、千種町の現状(人口、高齢化率等)や千種町内で実践されている支え合いや助け合い活動を本会職員が紹介し、その後、グループワークで意見交換を行いました。

各テーブルからは、「普段からのつながりが大事」「自分たちの役割を自治会の人に知ってもらうためにもふれあい喫茶に参加したい」「研修会が連携の場になった」等、さまざま

な意見を聞くことが出来ました。



同地区の民生委員と協力委員が、普段から連携し合う大切さを確認。今後の活動が期待されます(千種保健福祉センター)

また、本会が提案の、「近所で見守り!『まま』シート」を、今後の活動に活かしたいとの声も聞きました。

(千種支部 横山洋子)

また、本会が提案の、「近所で見守り!『まま』シート」を、今後の活動に活かしたいとの声も聞きました。

ご近所で 見守り!
こんなことに 気を付けてね
『まま』シート

【日頃の様子】

郵便物、新聞がたまってきたまま。	
電気がついたまま。電気が消えたまま。	
洗濯物が干されたまま。	
雨戸やカーテンが閉まったまま。	

(公民館や商店に貼って 日頃の気づきや働きかけに)

ご近所同士の見守り活動に

点字学習に活かしたい ～点訳ボランティアスキルアップ講座～



12名の点訳ボランティアさんが参加されました
(宍粟防災センター)

9月13日(水)、学校での点字学習指導のスキルアップを目指し、点訳ボランティアを対象とした講座を開催しました。

講師に点字技能士の仁枝玲子さんをお招きし、「子どもたちにとって点字の授業だけで終わるのではなく、“これからの自分の行動”を考えてもらえる内容にすることが大事です」と、点字学習で気をつけることや指導者のポイントなど分かりやすくお話しいただきました。

受講者からは「先生が話されたことを意識して、これからの点字学習に活かしたい」との声が聞かれ、新たな気づきや学びの機会となりました。

(本部・一宮支部・岡崎章訓)

「はりま自立の家」からお知らせ

秋のオープンハウス

～みんなでイベントを盛り上げよう！～

10/22(日)
午後1時30分
～3時30分

はりま自立の家
(一宮町伊和)



「ローズショップ&カフェ」は家庭的な雰囲気です

はりま自立の家では、オープンハウスの運営や障がいのある人たちとイベントを楽しんでいただけるボランティアさんを募集しています。当日は、**塚本正樹さんの写真展～車いすで撮り続けた25年～**など、盛りだくさんの内容でお待ちしています。

内容

紙芝居、趣味の作品展

クレープ屋さん他秋祭りイベント

クッキー・手作りパン・さをり織りの販売
お茶とお菓子のサービス



問合せ

はりま自立の家

一宮町伊和872-48

☎72-2135

写真展では、「**姫路城と桜**」など
35点が展示されます

社会福祉士実習で宍粟市の「ふくし」を学ぶ



実習生の二人がそれぞれ実習での「学び」と「気づき」を発表

本会では、関西福祉大学(赤穂市)3回生の森上聡さん、田中万葉さんを8月22日から1か月間ふるさと実習「社会福祉士実習」で受け入れました。

実習では、各地域で行われる行事や本会が行う各種事業に参加し、「地域福祉活動」と「ボランティア活動」、そして福祉専門職による「個別支援」など、様々な角度から宍粟市内の福祉の取り組みを学びました。

そして最終日には、本会職員を前に実習の学びを発表しました。



たなか まよ
田中 万葉さん(山崎町川戸)

山崎支部で実習しました。

実習を通し、地域課題に対し、住民同士が支え合える地域が今後重要になるということを深く理解できました。

社協は、住民の方が主体となり地域の活性化ができるよう、地域、資源、人をつなぎ合わせる役割を担われています。また、住民に対する社会福祉士としての視点も学ぶことができ、本当に充実した体験をさせていただきました。



もりがみ さとし
森上 聡さん(山崎町高下)

波賀支部で一か月間実習しました。配食サービスの利用者さんや自治会長宅への訪問を通して、波賀町に住まわれている方の話を聞くことができ、住民の方が普段から協力し合って生活されていることを学びました。特に北部域では「つながり」を大切にしていると感じました。

実習での経験を活かし、頼られる社会福祉士を目指して頑張っていきたいと思います。